

6. 資料

1. 主な所蔵資料	159
1. 図書資料	159
2. その他	160
2. 研究所関係資料	161
1. 設立の経緯	161
2. 年代別重要事項	161
3. 歴代所長（昭和5年～令和2年度）	164
4. 名誉研究員	165
5. 令和2年度予算等	166
3. 東京文化財研究所関係事業索引	171

1. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など和文欧文あわせて 173,011 冊の図書に加え、和文 5,486 種、韓文 54 種、中文 153 種、欧文 507 種におよぶ美術関係雑誌 168,062 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 18,795 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演劇画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第1次）・テアトロ（第1次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。令和2年度は 314 冊を登録し、現在進行中である。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて約 10,810 冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

文化遺産国際協力センターでは、海外の文化遺産や文化遺産保存、文化遺産国際協力や文化遺産保護制度に関する国内外の図書資料を約 14,000 点所蔵している。また、文化遺産保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化遺産保護関連法令資料の収集を実施している。

令和2年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区分	美術関係	無形文化遺産関係	保存修復関係	日本国外の文化遺産関係	計
和漢書	2,613 冊	311 冊	694 冊	72 冊	3,690 冊
洋書	85 冊	3 冊	16 冊	61 冊	165 冊
合計	2,698 冊	314 冊	710 冊	133 冊	3,855 冊

2. その他

(1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、久野健、中村傳三郎各氏寄贈研究資料を公開しているほか、田中一松、松島健、鈴木敬各氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内の実演記録室等での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,986 点、DVD 3,839 点、BD 752 点を作成してきた。令和 2 年度は、DVD 10 点、BD 1 点を登録した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960 (昭和 35) 年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD 1,885 点、DVD 1,486 点、BD 7 点を収集してきた。うち令和 2 年度は、市販の CD 1 点を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』(東京国立文化財研究所刊 1966～1996) で公表している。

(3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは文化遺産保護に関する国際協力の分野で活躍した日本人専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧蔵資料には、国際機関での会議や、個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に、UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ポロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化遺産の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、さらに2007（平成19）年4月1日に独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、現在に至っている。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年 2月 1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年 9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年 5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年 6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日 昭和10年 1月28日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和10年 4月 同年 6月 1日	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日 同年11月29日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積 97㎡の写真室 1 棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日 同年 7～8月	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目本間家倉庫 3 棟に疎開した。 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4月 4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日 同年 7月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日 同年11月30日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 ㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。 従来の 2 階建書庫の上にさらに 1 階を増築 3 階建とし、増築分延面積 71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日 同年 7月 1日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 663㎡の建物 1 棟が竣工した。 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年 7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延 1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日	前記の別館が竣工したので、同年 5 月 26 日竣工式が行われた。芸能部は、別館 3 階に移転した。
同年 5月 8日	保存科学部は別館の地階～2 階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年 6月29日	保存科学部庁舎の 1 階の模様替工事に着手し、同年 10 月 15 日工事が完了した。
同年11月 2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の 1 階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12 番 53 号」から「13 番 27 号」に変更された。

期 日	事 項
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新当庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新当庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新当庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新当庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新当庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新当庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

3. 歴代所長（昭和5年～令和2年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1～昭和 53. 3.31
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1～平成 30. 7.17
所長事務代理	山梨絵美子	平成 30. 7.18～平成 30.12.31
所 長	齊藤孝正	平成 31. 1. 1～現在

4. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31	昭和 59. 10. 18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31	昭和 60. 10. 18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27. 10. 1～昭和 63. 3. 31	昭和 63. 10. 18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31	平成 3. 10. 18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31	平成 3. 10. 18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31	平成 4. 10. 18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50. 10. 1～平成 4. 3. 31	平成 4. 10. 18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29	平成 16. 3. 30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30	平成 16. 3. 31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1～平成 17. 11. 30	平成 17. 12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31	平成 19. 3. 31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8. 12. 1～平成 26. 9. 30	平成 26. 10. 1
田中 淳	副所長	平成 6. 11. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63. 10. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31	平成 29. 4. 1
津田徹英	文化財情報資料部長	平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31	平成 30. 4. 1
飯島 満	無形文化遺産部長	平成 16. 4. 16～平成 31. 3. 31	平成 31. 4. 1
中山俊介	文化遺産国際協力センター長	平成 18. 2. 1～平成 31. 3. 31	平成 31. 4. 1
佐野千絵	保存科学研究センター長	平成 1. 4. 1～令和 2. 3. 31	令和 2. 4. 1
山梨絵美子	副所長	昭和 59. 4. 1～令和 3. 3. 31	令和 3. 4. 1
高桑いづみ	特任研究員	平成 4. 4. 1～令和 3. 3. 31	令和 3. 4. 1

5. 令和2年度予算等

(単位：千円)

(1) 予算

事 項	予算額
一般管理費	129,351
基礎研究事業費	62,162
応用研究事業費	67,598
国際遺産保護事業費	100,651
情報公開事業費	85,838
研修協力事業費	3,237
合 計	448,837

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成30年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

無形文化遺産部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

保存科学研究センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第60号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費

文化遺産国際協力センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (A)		
アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から—	小林公治	8,710
基盤研究 (B)		
対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	300
日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用	江村知子	7,280
白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚将英	4,160
絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川典子	2,340
ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川佳文	4,160
特別研究員奨励費 (外国人)		
日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田裕道	100
基盤研究 (C)		
常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原恵美	1,430
江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永拓世	1,300
ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川英規	650
DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤嘉則	1,300
博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕創	520
白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田直人	650
鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津信明	1,170
様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山純子	1,040
地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石みぎわ	1,560
従属栄養性微生物による硫黄化合物の分解とそれに伴う腐食性ガス生成	片山葉子	1,690
若手研究		
マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田まきは	1,040
中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢玲	780
木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋智子	1,950
古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高健太郎	1,300
南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪彩絢	1,170
組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷悦子	1,430
研究活動スタート支援		
近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井健	1,430
歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷悦子	1,430

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	依頼元	研究担当者	契約総額
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	早川泰弘	36,857
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	早川泰弘	18,606
被災資料有害物質発生状況調査業務	陸前高田市	早川泰弘	1,955
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	友田正彦	42,478
ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業	文化庁	金井健	8,590
日本美術の魅力 (在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展)	独立行政法人 日本芸術文化振興会	江村知子	8,894

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	相手先	研究担当者	金額
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	一般社団法人国宝修理装飾師連盟	早川典子	150
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	早川泰弘	400
Getty・リサーチポータルへの明治期～昭和期(戦前)の展覧会資料(デジタル)の提供・公開について	Getty研究所	江村知子	3,030 (8,208)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研究課題	助成元	研究代表者	助成額
近世の奄美・沖縄諸島における風葬の普及に関する文献史学的研究	公益財団法人高梨学術奨励基金	牛窪彩絢	530*
北海道における災害リスクおよび減災に関するネットワーク構築と研修	文化財保存修復研究国際センター (ICCRUM)	林美木子	177
「鉄建造物の保存と修復」の英語版翻訳	公益財団法人東芝国際交流財団	中山俊介	1,450
山西省仏教彩塑像の制作材料と技法に関する調査 一日中共同による保存修復に向けての基礎研究一	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	岡田健	500**
外国人研究者招致 (レミー・ドレフュス=デュセーニユ氏)	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	早川典子	300**
無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	公益財団法人三菱財団	今石みぎわ	6,500
バガン遺跡群 (ミャンマー) 寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川佳文	3,550*
琉球国における中国式墓制の受容一殞を中心として一	学習院大学東洋文化研究所	牛窪彩絢	300

*新型コロナウイルス感染症拡大により実施不可のため次年度に繰越

**新型コロナウイルス感染症拡大により実施不可のため辞退

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研究課題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
書面開催	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
書面開催	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会
書面開催	文化財防災に関する研究協議会
2年8月23日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門—文化財の記録としての写真撮影実践講座」(上原美術館)
2年9月5日	第27回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方」(オンライン)
2年9月25日	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」(オンライン併用)
2年10月5日~15日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
2年10月19日	令和2年度防災ネットワーク推進事業研修会「文化財防災と心理社会的支援」(国立アイヌ民族博物館)
2年10月30日	第54回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
2年11月12日, 25日	オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」
2年11月21日	研究会「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」(オンライン)
2年12月5日~ 3年1月28日	「箕のかたち—自然と生きる日本のわざ」展(ギャラリーウオーク)
2年12月4日~11日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(オンライン)
2年12月14日	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究会「文化財に用いられている鉛の腐食と空気環境」
2年12月23日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナーシリーズ「デジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」
2年12月25日~ 3年1月31日	第15回無形民俗文化財研究協議会「新型コロナ禍における無形民俗文化財」(オンライン)
3年1月22日	国別文化遺産保護研修(ブータン)「リビングヘリテージの側面に着目した伝統的民家の保存と修復」(オンライン)
3年1月31日	第28回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs III —地域社会における文化遺産の役割を考える—」(オンライン)
3年3月4日	「保存と活用のための展示環境」に関する研究会—照明と色・見えの関係—(オンライン併用)
3年3月12日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門—文化財の記録としての写真撮影実践講座」(東北歴史博物館)
3年3月20日	第14回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」

3. 東京文化財研究所関係事業索引

凡 例

- (1) この索引は、令和2年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。
 (2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

運営費交付金によるプロジェクト	【交付】
科学研究費助成事業	【科研】
受託調査研究	【受託】
共同研究	【共同】
助成金	【助成】
その他の調査研究	【その他】

- (3) *は新型コロナウイルス感染症拡大により実施不可のため次年度に繰越したものを示す。
 **は新型コロナウイルス感染症拡大により実施不可のため辞退したものを示す。

あ	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	53
	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から—	【科研】	85
	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	【科研】	93
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	【交付】	48
か	外国人研究者招致(レミー・ドレフュス=デュセーニュ氏)**	【助成】	
	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発製法・修復に関する総合的調査	【科研】	89
	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	【科研】	108
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	41
	近世の奄美・沖縄諸島における風葬の普及に関する文献史学的研究*	【共同】	122
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	【交付】	50
	Getty・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・公開	【共同】	121
	航空資料保存の研究	【共同】	120
	国際研修	【交付】	56
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	113
	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	【科研】	105
さ	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	55
	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	【科研】	99
	山西省仏教彩塑像の制作材料と技法に関する調査—日中共同による保存修復に向けての基礎研究—**	【助成】	
	従属栄養微生物による硫黄化合物の分解とそれに伴う腐食性ガス生成	【科研】	101
	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	【科研】	98
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	59
	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	【科研】	107
た	対外交渉の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	【科研】	86
	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	【科研】	100
	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	【科研】	103
	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	【科研】	95
	「鉄構造物の保存と修復」の英語版翻訳	【助成】	124
	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	【交付】	80
	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』	【交付】	70
	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	【科研】	92
	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】	114

な	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	【科研】	106
	日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】	40
	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	【科研】	91
	日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用	【科研】	87
	日本美術の魅力(在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展)	【受託】	118
は	バガン遺跡群(ミャンマー)寺院祠堂壁画の保存修復*	【助成】	126
	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	【科研】	97
	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	【科研】	88
	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	【科研】	96
	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	【交付】	76
	被災資料有害物質発生状況調査業務	【受託】	115
	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】	79
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】	42
	ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業	【受託】	117
	プロジェクトの一環として刊行された刊行物	【交付】	70
	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等	【交付】	63
	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】	116
	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】	62
	文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	【共同】	119
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】	49
	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】	57
	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】	39
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】	47
	文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】	79
	文化財の収集・保管に関する指導助言	【交付】	76
	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】	78
	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	【交付】	45
	文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】	77
	文化財防災ネットワーク推進事業	【その他】	128
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	【交付】	51
	ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	【科研】	94
	『保存科学』第60号の出版	【交付】	69
	保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】	54
	保存と活用のための展示環境の研究	【交付】	46
	北海道における災害リスクおよび減災に関するネットワーク構築と研修	【助成】	123
	ポンパイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	【科研】	90
ま	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	【科研】	102
	無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	【助成】	125
	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】	61
	無形文化遺産に関する助言	【交付】	77
	無形文化遺産部出版関係事業	【交付】	69
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】	52
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】	43
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】	44
	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	【科研】	104
ら	琉球国における中国式葬墓制の受容—殯を中心として—	【助成】	127
	令和元年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	【交付】	69
	令和2年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	【交付】	60
	歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	【科研】	109